

グローバル生産における日本の型づくりの方向性

ニチダイにおける 事業展開および 金型づくりの方向性

(株)ニチダイ

瀬川 秀実*

2011年3月11日に発生した東日本大震災から、10カ月が経過しようとしている。震災発生直後に生じたサプライチェーンの寸断により、国内自動車産業は生産停止を余儀なくされ、一時は年内の正常化は困難とも言われた。しかし、現場力、モノづくりの底力により想定より早い復旧を実現し、現在では震災前の生産台数まで持ち直している。

一方、為替、労働規制、貿易自由化、法人税率、電力不足、燃費規制の六重苦と呼ばれる圧力が日本の製造業にのしかかっているとされており、日本のモノづくりの基盤となるサポートインダストリーとしての役割を担う金型産業も同じ苦境に直面している。

ここでは、こうした環境激変の最中において金型メーカーが考える今後の事業展開および金型づくりの方向性を、当社のこれまでの海外展開で得た教訓などを織り交ぜながら述べていきたい。

ニチダイと精密鍛造金型業界の特徴

ニチダイは、精密鍛造金型を中心に事業を展開しているメーカーである。当社は、1959年に前社長田中善昭が大阪市北区にて田中合金製作所として創業した線引きダイスの事業がその前身となっている。その後、冷間鍛造金型を手がけるようになり、1967年に大阪府寝屋川市にて株式会社ニチダイが設立された。1971年に現在の本社がある京田辺市に工場移転、1988年

に現在の主力工場である宇治田原工場が完成し今に至っている。その間、精密鍛造金型以外に、精密鍛造品の開発・試作、積層焼結金網フィルタの開発・製造、VGターボチャージャー部品の組立てなど事業領域を拡大してきたが、現在でも精密鍛造金型の売上高は総売上高の40%以上を占めており、主力事業の役割を担っている。

ここでは、当社の今後の事業展開および国内外での金型づくりの方向性を考えるうえで特筆すべき、当社および産業の特徴を紹介したい。第1の特徴として、当社は金型の生産機能のみならず、設計、開発、営業および精密鍛造品の生産までの機能をもつ、垂直統合型の企業であることがあげられる。精密鍛造にかかわるすべての機能を社内にもつことで、顧客企業の部品設計段階から参加し高付加価値な金型製作にかかわることができる能力を、われわれはトータルエンジニア力と呼び、競争力の基盤としてきた。この能力は、顧客ごとにカスタマイズした金型製品に対応できる設計部隊、個別受注生産に対応できる生産体制などによって下支えされている。

第2の特徴として、当社の精密鍛造金型の納入先の約80%は、完成車メーカー、自動車部品メーカーなどの自動車関連企業であり、国内の自動車産業の状況に大きく左右されることがあげられる。特に、エンジン、トランスミッション、駆動系といった重要保安部品と呼ばれる部位の生産に使用される金型が多い。

自動車産業と鍛造金型業界との密接な関連は、統計データから明白である。図1は、1991年の国内にお

*Hidemi Segawa：取締役 営業本部長
〒610-0341 京都府京田辺市新北町田13
TEL (0774) 62-3481